【別紙３】佐久平駅周辺再整備基本計画（素案）

雄大な浅間山と蓼科山に囲まれ、佐久の風土と新たな文化が響き合う、
広域交流拠点
～多様な人々が集い、心地よく過ごし、佐久の魅力を発信する玄関口へ～



パースは引き続き検討

1．はじめに

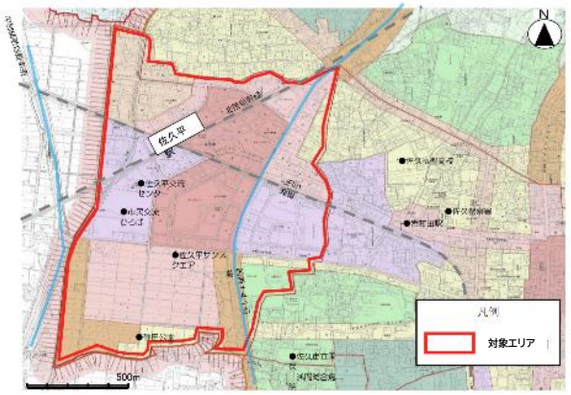
（1）計画策定の経緯

・佐久平駅は、平成9(1997)年に開業以来、**佐久地域における交通結節点、商業・業務の中心として発展**してきた。
・まもなく開業30年が経過しようとする中、**施設の老朽化や利用者ニーズの変化等への対応が喫緊の課題**となっている。

そのため

・佐久平駅周辺地区が佐久市の発展を牽引し、**佐久広域圏の拠点**として、将来にわたり心地よく利便性の高い空間を実現することが求められている。
・そのため、**「佐久平駅周辺再整備基本計画」**は、「交通結節点としての駅機能の強化」、「佐久地域の玄関口としての価値向上」の実現を目指すものとする。

○対象エリア



（2）上位計画・関連計画の位置づけ

・上位計画や関連計画においても、佐久市および佐久平駅周辺は中核拠点として明確に位置づけられており、今後の広域的なまちづくり・交通ネットワーク形成の中心となる地域である。

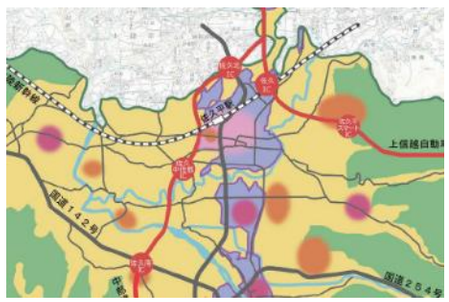
【第二次佐久市総合計画後期基本計画(令和4年3月策定)】

・佐久市の中心市街地としての整備。
・佐久広域圏の拠点地域としての**都市機能を高める土地利用の推進。**
・公民連携による持続可能な魅力ある街づくりの推進。
・まちなかにおける交流・滞在空間の創出を図るため、**「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくり**を推進。

【国土利用計画(佐久市計画)(令和4年3月改定)】

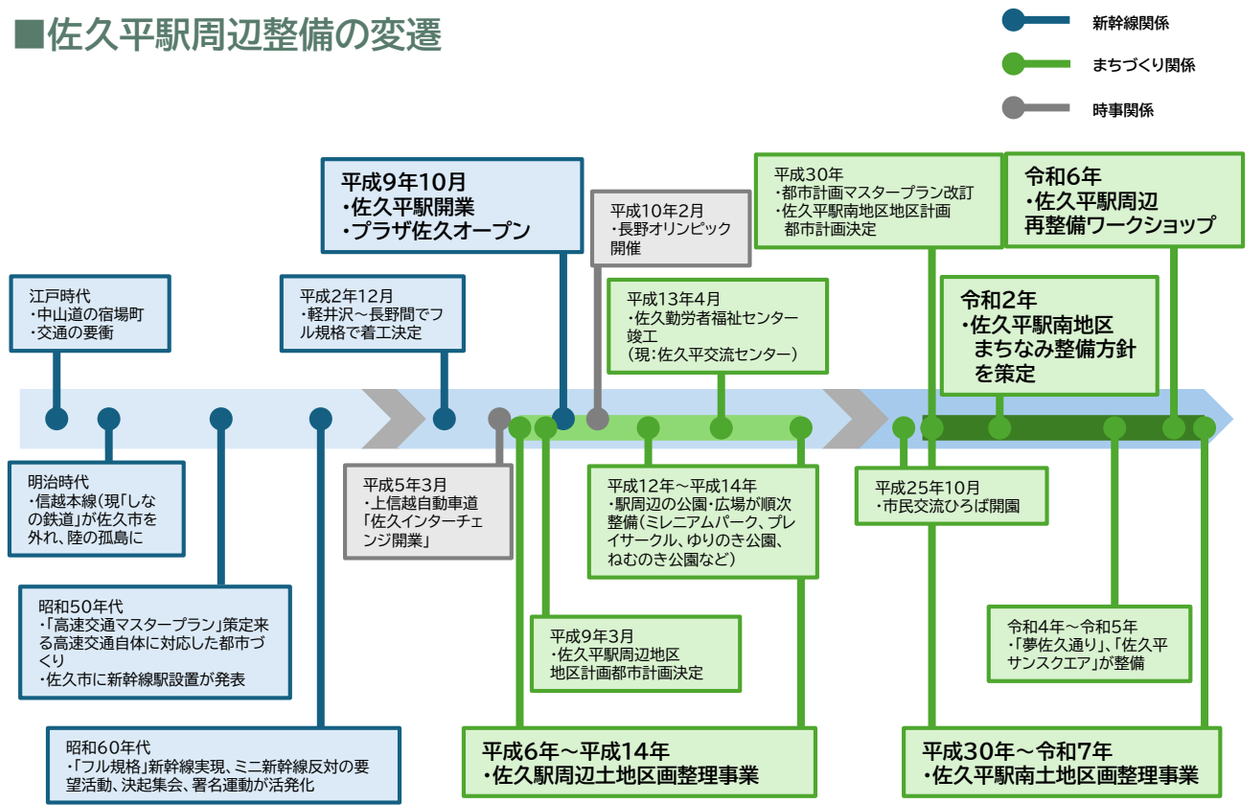
・佐久平駅南地区に新たな商業系などの都市的土地利用を進め、市民生活の利便性の向上、交流人口の創出を目指し、佐久平駅周辺などと一体となって、**様々な魅力を発信**するとともに、**各地域への人の流れを誘発するネットワークの中心としての施設整備を図る**。
・佐久平駅南地区は、無電柱化を推進し、防災機能の強化をはじめ、良好な景観の形成や、**安心・快適な歩行空間の充実を図る**。
・佐久平駅周辺、住宅地を始めとした開発需要が高まっていることから、中部横断自動車道本線までの間において、本市の持続的発展に資する適切な土地利用を進める。

○佐久市土地利用構想概念図



（3）駅周辺のまちづくりの動向

■佐久平駅周辺整備の変遷



公共施設や商業機能の集積

・駅開業後、周辺では土地区画整理事業が進められ、大規模公園などの公共施設や宅地の整備が進み市街地が形成された。
・駅周辺では商業、買い物、サービス、住宅といった複数機能が集まっており、住むにも便利、買い物にも便利、移動にも便利という「複合拠点」としての役割を担っている。
・佐久平駅南地区では、土地区画整理事業による道路、公園、宅地、公的施設の整備を新たなまちづくりが進行中。

土地区画整理内の道路開通(令和4年9月供用開始)



駅周辺でのイベント・にぎわいづくりの動き

・プラザ佐久(1Fレストラン部分)では、日替わり出店によるシェアキッチンとしての活用や、自由通路における地酒・地域産品をテーマにしたイベントなど、多様な使い方を試行する「実験的な取組」が行われており、駅を活かした新しい交流やにぎわいづくりの取り組みが行われている。
・駅およびその周辺(駅前広場、近隣広場、公園、ショッピングモールなど)を舞台にした大型イベント(まるごとつながるフェスタ佐久平など)が開催されている。



2．「佐久らしさ」を構成する６つの要素

（１）穏やかな高原都市

ア　山岳パノラマと広い空
駅周辺から浅間山、八ヶ岳、荒船山、蓼科山といった名峰を望むことができ、周辺に視界を遮る要素が少ないことから、視線の抜けと空の広がりを実感できる景観環境が形成されている。
イ　千曲川の清流と水辺の風景
山並みと千曲川をはじめとする水辺、田園景観が一体となった風景は、佐久地域を象徴する原風景として、人々に安らぎを与えている。
ウ　日本有数の日照時間
標高約700mの高原に位置し、冷涼で湿度が低く、晴天率が高いという気候特性により、快適で居心地の良い生活環境が形成されている。

（２）広域交通と地域ネットワークをむすぶ交通の要所

ア　広域交通の大動脈が交差する拠点
新幹線や高速道路などの広域交通の大動脈と、佐久地域内の交通が結節する、広域的な交通結節点となっている。
イ　地域間ネットワークの中核拠点
佐久平駅を玄関口として、岩村田・中込・野沢・臼田・浅科・望月といった各地域拠点と結ばれ、地域間ネットワークの中核となる拠点である。
ウ　災害リスクが比較的低い拠点特性
活断層が確認されておらず、自然災害リスクが比較的低いことから、広域拠点として高い信頼性を有する立地である。

（３）多様な食と醸造の文化

ア　醸造文化の集積
市内には11の酒蔵が立地し、日本酒をはじめ、クラフトビールなどの醸造文化が息づくまちである。
イ　古くからの食文化
220年の歴史を持つ「佐久鯉」に代表される郷土料理や、昆虫食により栄養を補ってきた食文化が受け継がれている。
ウ　新たな食文化
ブランド米「五郎兵衛米」をはじめ、「日本三大ケーキのまち」としての取組、安養寺ら～めんや駒月みそかつなど、地域資源を生かした多彩な食文化が形成されている。
エ　新鮮な野菜や果樹
プルーン発祥の地であるとともに、桃やリンゴ、高原野菜などの生産が盛んで、新鮮で高品質な農産物に恵まれている。

（４）古くから紡がれてきた歴史

ア　中山道の宿場町として受け継がれる歴史的景観
望月・茂田井・八幡・塩名田・岩村田の各宿場において、中山道の宿場町としての歴史を今に伝える街並みや歴史的景観が受け継がれている。

イ　象徴的な近代・幕末の歴史遺産
市内には、日本に二つしか現存しない星形城郭である龍岡城五稜郭や、近代教育の先駆けを示す旧中込学校など、佐久を象徴する近代・幕末期の歴史遺産が立地している。

（５）創作と体験に親しめる身近なカルチャー

ア　世界へ発信する現代カルチャーの芽
武論尊氏（『北斗の拳』）や新海誠監督（アニメーション）ゆかりの地として、若者やクリエイターを惹きつける現代カルチャーの拠点となっている。

イ　空を活かしたイベント文化
佐久バルーンフェスティバルに代表される、高原の風土と広い空を生かした体験型・参加型のイベント文化が育まれている。

（６）「ぴんぴんころり」に象徴される健康長寿と医療のまち

ア　地域医療の原点
佐久総合病院を核として、農村医学や予防医療に先駆的に取り組んできた歴史がある。

イ　「ぴんぴんころり」と健康長寿
ぴんころ地蔵に象徴される「健やかに生きる」という意識が市民の暮らしに根付き、健康長寿を大切にする文化が地域全体に育まれている。

3．再整備にあたり考慮すべき点

（1）現状

■佐久平駅の利用状況の変化

・首都圏へのアクセスが良好で、佐久平駅利用者数は年々増加傾向にある。
・新幹線利用については、県内の北陸新幹線停車駅の中で、1日平均乗車人員が3番目に多い駅となっている。
・定期利用率（令和6年）が37%と高い水準であることから、通勤・通学目的での駅利用が多いことがうかがえる。

新幹線開業前・開業直後
・東京まで小海線・信越線で約3時間30分
・H9佐久平駅停車本数： 33本
・H9佐久平駅乗車人員： 1,566人/日（平均）
・H9年10月佐久市（合併前）： 65,350人

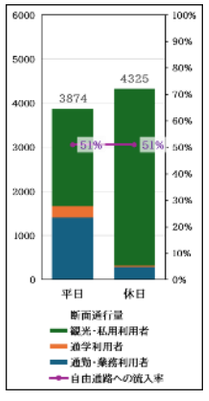
新幹線開業　後
・東京まで北陸新幹線で約1時間10分
・R7佐久平駅停車本数： 51本
・R6佐久平駅乗車人員： 3,409人/日（平均）
・R7年10月旧佐久地域（旧佐久市域）： 71,365人

■佐久平駅の現状

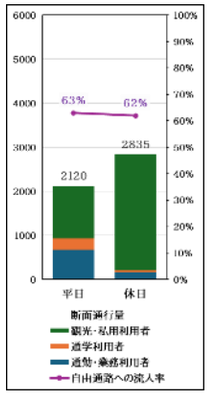
・駅利用者数は平日よりも休日の方が多い。また、平日は「通勤・業務利用者」や「通学利用者」が多く、一方、休日は蓼科口の利用が多い傾向が見られる。
・蓼科口は、駅（自由通路）からの流出が多いのに対し、プラザ佐久から駅（自由通路）への流入が多いことから、プラザ佐久は、電車の待ち時間などで利用されている可能性が高いと考えられる。
・駅前ロータリー（蓼科口）では、帰省シーズンに迎えの車が集中し、交通広場の先まで渋滞が発生している。
・満月噴水および三日月噴水が停止しているほか、開業から28年が経過しており、案内看板など施設の一部に老朽化が見られる。

○佐久平駅の利用状況について（令和6年11月に駅利用者調査を実施）

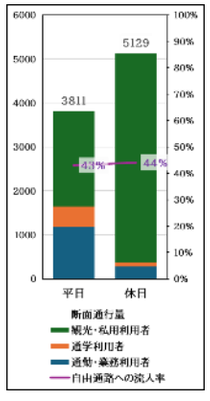
浅間口

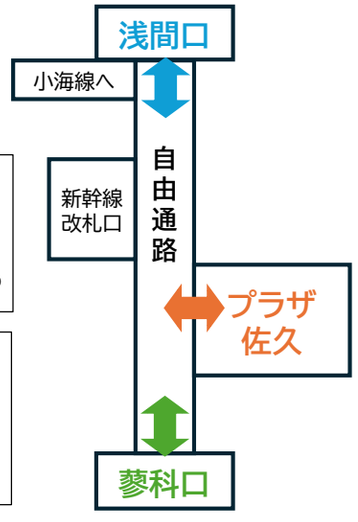


プラザ佐久



蓼科口





【実施日時】
【平日】
令和6年11月20日(水)
6:00～24:00
【休日】
令和6年11月23日(土・祝)
6:00～24:00

※属性判断基準
【通勤・業務利用者】
スーツ(スラックス)、作業着
【通学利用者】
学生服、ランドセル、学校ジャージ
【観光・私用利用者】
カジュアル服

○駅前ロータリーの交通渋滞

・夕方の帰宅ラッシュや帰省ラッシュ時には、駅前に5分以上停車する車両が見られ、周辺道路で渋滞が発生している。





令和7年8月8日（金）の交通渋滞調査時の様子

○噴水（満月・三日月の池）跡

・「満月の池」、「三日月の池」は運用停止中



満月の池



三日月の池

（2）利用者ニーズ（アンケート調査、ワークショップ）

・令和6年に駅の課題やニーズを把握するため、市民アンケートおよびワークショップを実施した。

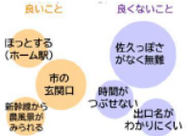
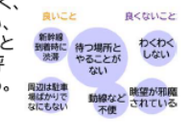
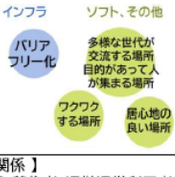
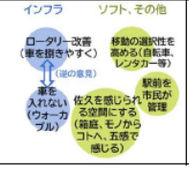
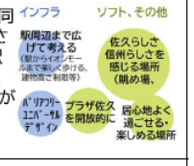
市民アンケート
利用実態 / 良い点 / 改善点

ワークショップ
ニーズ / 魅力 / 課題 / 解決策

【主な意見】

・駅前広場の2つの池や案内看板の老朽化など開業から28年が経過し改修が必要である。
・交通結節点としての機能や移動の円滑化の観点、使い勝手を良くする視点から具体的な課題が指摘されている。
・佐久市の玄関口として佐久らしさを感じさせる・PRする場所、充実した時間を過ごせる居場所、市民や来訪者が交流をする場所など、交通結節点としての機能に加えて場所（プレイス）としての価値を高めることが求められている。
・佐久平の強みは眺望の良さであり、それを最大限に生かすことが求められている。

■第1回ワークショップでの意見

	地域住民	移住者	通勤通学者
佐久平駅とあなたとの関係	・普段から駅を使う方は少なく、遠出の際に利用。 	・出張で駅を利用したり佐久に客や家族を招いたときの送迎でつかることも多い。 	・日常利用が多いが、新幹線駅であるため遠出で利用することも多い。 
あなたにとって佐久平駅とは	・実用的、移動の起終点といった、交通結節機能に着目した意見が多い。また整備当時は地域の分断という感覚もあったとのこと。 	・自分のホーム駅、市の玄関口という意見がある一方、佐久らしさが感じられない無難な駅という意見もある。 	・良い評価はなく、やることがない、わくわくしないといった残念な評価となっている。 
再整備への期待	・現状は交通の結節点としか見ていないが、再整備により佐久市にとって交流の拠点となることが期待されている。 	・佐久らしさを感じられる駅にするためいくつかのアイデアが出されている。 	・B グループと同じく、佐久らしさを感じられる駅にするためいくつかのアイデアが出されている。 
総括	【佐久平駅とあなたとの関係 】 ・同じ市民でも、地域住民・移住者・通勤通学利用者といった属性の違いに応じて佐久平駅の利用シーンや利用目的が異なる。 【あなたにとって佐久平駅とは 】 ・交通結節機能としては評価され、佐久市の玄関口という印象もあるものの、駅でやることがない、佐久らしさが感じられないといったマイナスの評価も多く聞かれた。 【再整備への期待 】 ・各グループとも、交通結節点としての機能強化よりも、交流の拠点や佐久らしさをPR する場所として再整備することが期待されている。		

4．再整備のコンセプト案・基本理念

佐久らしさを構成する6つの要素

- 穏やかな高原都市
- 多様な食と醸造の文化
- 創作と体験に親しめる身近なカルチャー
- 広域交通と地域ネットワークをむすぶ交通の要所
- 古くから紡がれてきた歴史
- 「ぴんぴんころり」に象徴される健康長寿と医療のまち

【再整備のコンセプト案】

雄大な浅間山と蓼科山に囲まれ、佐久の風土と新たな文化が響き合う、広域交流拠点
～多様な人々が集い、心地よく過ごし、佐久の魅力を発信する玄関口へ～

上位計画・関連計画での位置づけ

・上位計画や関連計画において、佐久平駅周辺は中核拠点として位置付けられており、広域的なまちづくり・交通ネットワークの中心となる地域である。

現　状　・　課　題（市民・来訪者意見）

・駅の利便性向上（エスカレーターの設置など）を求める声がある。
・通勤・通学での駅利用者が増えており、待合時間を有効に過ごせる滞在空間を求める声がある。
・単なる結節点ではなく、市民や来訪者が交流する場所を求める声がある。
・駅周辺ではまちづくりが進められているほか、各種イベントも行われているため、連携した取り組みが求められている。
・佐久市の玄関口として佐久らしさを感じさせる・PRする場所を求める声がある。

【あるべき姿】

多様な利用者ニーズに対応し、交通・交流・情報発信の機能を備えた**「広域拠点」としての役割を果たす駅**

以上を踏まえ、本計画の目的を次のとおり設定

【基本理念①】

駅での乗り換えや駅から市内への移動の利便性を高める

【基本理念②】

駅に人々が集まり、滞在・交流し、多様な活動を生み出す

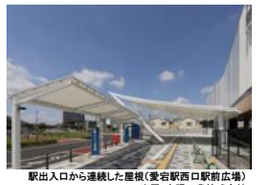
【基本理念③】

玄関口である駅から佐久の魅力を発信する

5．再整備の基本方針（素案）

（1）交通結節点としての利便性強化

駅と周辺を一体的に捉え、分かりやすい情報発信や統一的なブランディングなどにより、誰もが利用しやすい交通結節点の形成を検討する。あわせて、バリアフリー化やエスカレーター等の整備を通じて、多様な利用者が円滑に移動できる環境づくりを検討する。さらに、ロータリー改善や屋根の連続化、モビリティハブの導入などにより、鉄道と二次交通の接続性向上を図る方向性を検討する。加えて、寒さ対策や設備更新により、快適で滞在しやすい駅空間のあり方について検討する。



駅出入口から連続した屋根（愛宕駅西口駅前広場）
出展：太陽工業株式会社



送迎用駐車スペース（新山口駅）
出展：山口市



駅前広場の夜間照明（瀬駅南側駅前広場）
出展：大光電気株式会社



サイクルポート（富山駅前広場）
出展：Toyama net

（2）出会いや交流が生まれる場づくり

駅やその周辺を、多様な人々が関わり、日常的に立ち寄りたくなる交流の拠点として活用していく。市民や学生、事業者、管理者などとの連携を通じて、展示やイベント、滞在・活動の場づくりを進め、エリア全体でのまちづくりにつなげていくことを目指す。あわせて、広場や屋外空間、ワークスペース、カフェやブックギャラリー等の活用により、世代や目的を超えた出会いと滞在が生まれる環境づくりを検討する。さらに、駅と周辺エリアの回遊性を高め、周辺空間の利活用と一体的に、にぎわいと交流が連続する拠点形成の可能性を検討する。



マルシェイベントの開催（千葉駅西口駅前広場）
出展：千葉市



こどもが遊べるふわふわドーム（西神南駅）
出展：Kiss Press



ワークショップ空間（京都国際マンガミュージアム） 出展：本棚百景

（3）心地よく滞在できる場づくり

駅や周辺の既存施設や空間を活かしながら、日常的に立ち寄りやすく、快適に過ごせる滞在空間を創出する。あわせて、夜間の照明やみどり豊かな空間づくり、眺望を活かした滞在スペースなどにより、安心してくつろげる場の形成を目指す。さらに、壁面や天井の活用、物販や展示などを通じて、地域らしさやにぎわいを感じられる空間演出を行う。



太陽熱利用をして温かい休憩室（小淵沢駅）
出展：株式会社JR東日本建築設計



ブックラウンジを併設した駅隣接施設（尾道駅）
出展：コロカル



テレワークが可能な個室ブース（東京駅）

（4）佐久らしさが伝わる空間の魅力化

佐久ならではの食や文化、産業の魅力に触れられる拠点として、プラザ佐久や自由通路を活用し、発信や体験の場づくりを進める。あわせて、地元事業者や地域資源と連携し、展示や販売、体験型イベントなどを通じて、佐久の魅力を身近に感じられる仕組みづくりを推進する。さらに、日常利用者や来訪者が気軽に立ち寄り、交流しながら地域の価値を知ることができる空間演出のあり方を検討する。



唎酒ができるスタンド（越後湯沢駅ぽんしゅ館）



展望デッキ（小淵沢駅）
出典：株式会社JR東日本建築設計



イラストや写真を取り入れた観光案内看板（鯖江市）
出典：TSUGI



駅の通路の壁面を利用したアート展示
出展：Yamanote Line Museum

5．エリア別の再整備の展開イメージ

（1）駅前広場

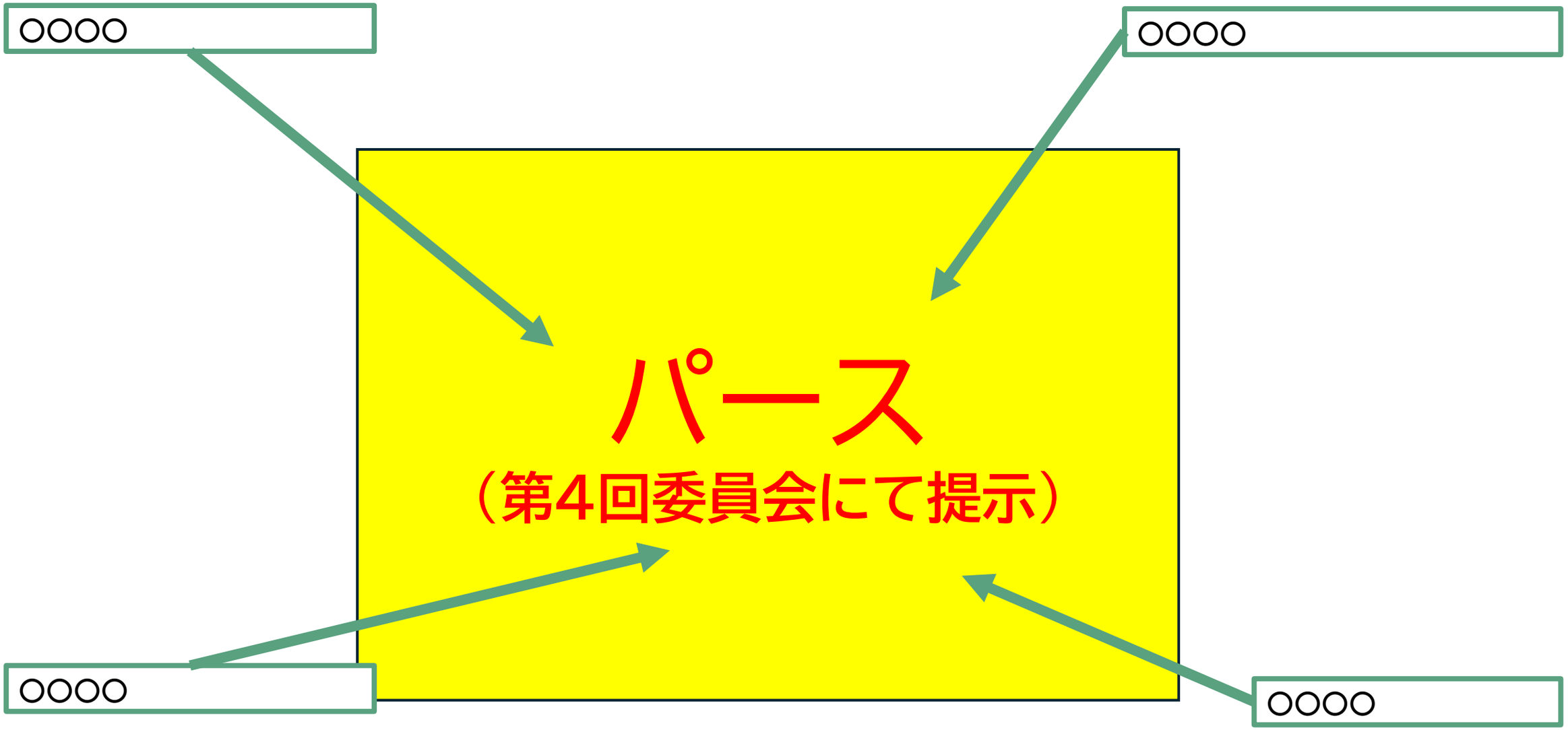
（3）自由通路

引き続き検討
（第4回委員会にて提示）

（2）プラザ佐久

5．エリア別の再整備の展開イメージ

プラザ佐久



6．実現に向けたロードマップ

引き続き検討
（第4回委員会にて提示）

7．実現に向けた実施体制

引き続き検討
（第4回委員会にて提示）